

1 日 時 平成21年5月25日（月）午後2時～4時

2 場 所 府中市役所北庁舎3階第1会議室

3 出席者（敬称略）

(1)委員13名

加藤 佑子、西勝 義恵、坂本 明美、設楽 厚子、芝 喜久子、白井 紀子、
鈴木 映子、寺谷 弘壬、奈良 覚、平形 芳郎、比留間 一磨、三宅 昭、
山内 啓司

※ 澤井委員、野本委員は欠席。

(2)職員5名

新海教育長

大野文化スポーツ部長、山村生涯学習スポーツ課生涯学習推進担当副主幹、
市ノ川企画係長、大木

※齋田文化スポーツ部次長（兼）生涯学習スポーツ課長は欠席。

4 諮問の伝達

教育長諮問事項について

・教育長から諮問書を朗読の上会長へ渡す。答申期限は平成23年3月31日まで。（委員の方々には事務局より写しを配付）

テーマは、

1 第2次府中市生涯学習推進計画の具体化に向けて

- 南白糸台小学校で校長職を務めています。実は3月31日で定年退職をしたが、1年延長してつとめています。この会には昨年からお出ささせていただいていろいろ勉強させていただきました。本校の場合、地域との関わり等生涯学習にいちばん関係がある本校での実践等を参考意見としてさせていただきました。今年もよろしくお願ひします。

市ノ川係長

前回は体調を崩して欠席させていただきました。生涯学習スポーツ課企画係長をしています。2年間お世話になります、よろしくお願ひします。

5 連絡事項

1) 配布資料の確認

①レジュメ。②前回の議事録。③第2次府中市生涯学習推進計画（製本）。④平成21年度日程。⑤文部科学広報。

2) 前回議事録の確認について

各委員に校正を依頼した会議録（案）は、一部校正後、市民に公開すること、ホームページに掲載することが了承された。（発言部分に関しては名前を伏せる。）

3) 当日の校正について。

- ・ 2 ページ 6 各委員自己紹介ひとつめの■の1行目。民事協→民児協。
- ・ 3 ページ 6 つ目の■の1行目。青山学院大学の名誉教授を30数年勤めている。→青山学院大学の名誉教授です。30数年勤めている。

6 協議事項

- ・ 諮問事項の検討について

以下のとおり意見交換が行われた。

[意見の趣旨] ■：委員 ➡：事務局

- 1年終わったところで中間答申、最後の年で2年通しての答申をだせたらいいと思いますのでよろしくお願ひします。答申をいただいた中で、先月みなさんに配布しました、今はオレンジの冊子になっている「第2次府中市生涯学習推進計画」をお目通しいただいた中でお気づきの点・ご質問等がありますか。
- この製本されていない方を読んできました。すべてかかれているもの80%でも実行されればすばらしいと思います。実際、どのくらい第1次の答申案が実行されてきたのか教えていただけますか。
- 65、66ページ中ほどの②の生涯学習サポート事業の新設、これは新規で、この中に今までやってきた3期の答申と、67ページの下の方のファシリテーターの養成は今までありませんでした。これを新規に受け入れていただきました。あと具体的な部分に関しては事務局の方からお願いします。
- ➡ 13、14ページ第1次計画の成果というページがありますが、第1次計画には279事業があり、実施事業は8割をしめています。その中の府中カレッジ100単位取得事業では、毎年100人を超える市民が100単位に挑戦し、現在までに364人の生涯学習士が育っています。そういった成果がこの12ページに、平成19年度各施設の延べ利用者数ということで、生涯学習に関わる文化センター、生涯学習センターあるいはスポーツ施設、博物館、図書館、美術館、学校開放等の平

成19年度現在の延べ利用者数と内訳等が書いてあり、これまでに第1次推進計画の中で、いつでもどこでも誰でも生涯学習ができる環境づくりが一番のメインになり、この部分については今見ていただいた通りの成果です。それを引き継いだ形の第2次計画と大きく違うところは、先ほどおっしゃった通り、ファシリテーターの部分、サポーターの部分あるいは学び返しに関わる部分です。学んだ今までの学習機会の成果を今後どのように生かしていくのか。今まで学習者としていた市民の方が今度はサポーターへどういう風が変わっていくのかが今後の課題になると思います。

■ ついでに市の方に教えていただきたい。12ページに私にとってはすばらしい数字がでていますが、市の担当者から見るとまだ不満な部分がありますか。もう少し多ければいいというところがありますか。

➡ 例えば学習センターでいうと、1年間で学習施設及びスポーツ施設を利用した方が33万1492人。宿泊なども含めた施設全体で言うと、平成19年度で41万人、平成20年度で38万人ということで少しずつ下がっています。平成15、16年度のピーク時は確か45万人を超えていました。少しずつ減ってきているのは市にとっては良くありません。それをもう少しまた右上がりにしたいというのは一つです。もう一つはそのためにたくさんのお金や人間をかける状況には今ありませんが、そのためにも学び返しとかボランティアとか、サポーターという形で、切替えを市民のみなさまにさせていただくために、どういうふうにすればいいのか考えています。

■ なぜ減っているのですか。分析は？

➡ 学習センターの場合でいうと一つには、平成5年にでき、その後に美術館、平成19年12月にはルミエール府中、新中央図書館ができました。そういう設備が増えてきて分散している状況があります。それについては、平成19年12月にできたルミエール府中新中央図書館ができたことによって平成19、20年度の学習センターの図書室と学習室の利用が1万5千人くらい減っています。分散しているということです。それから学習センターの施設も平成5年から、16年少し、施設としては古くなってきています。もう一つはここ数年不況というのか、そのへんのことがあるって施設利用者も減っています。さまざまな要因がありますが、それが現状です。

■ 今のページの前ページの真ん中あたり、(表—1)の後の「社会教育関係団体として市に登録されている市民の自主的な活動グループの数は1178団体」とありますが、非常に多くの数なので感銘を受けましたが、市に登録されているという意味とこれだけ沢山の団体はどういう分野であるのかを教えてください。

- ➡ 社会教育法に定められている社会教育関係団体に市の方に登録していただいています。その団体さんについては、施設利用費を無料にしたり、文化センターの部屋借りとかというところを含め1178団体います。これについては文化活動をするところもあれば、民舞とか体を動かすものなど社会教育であれば登録の基準になっています。
- 施設の利用や参加を通じていろんな団体ができているのですか？
- ➡ はい。
- 27ページの「第2節 分野別推進事業」ということで、下の方に表が書かれています。施策・事業名、目的・内容・事業の方向性、最後の方針というところで、継続は分かるが、拡充というのは、新たに予算をプラスアルファして、それともそのままの形で派生させていくのですか。どのような形をとるのですか。
- ➡ この計画を派生するに当たっては、主管課の市民活動支援課、地域福祉推進課に庁内メール等コンピューターで今の計画はどうか、これからどうするか、というような照会をかけて、その主管課の方で今後10年間の方向性として継続にするのか、それとも拡充にするのか、それとも廃止にするのか、その主管課の方の考え方で拡充になっています。
- わかりました。
- その他、ご感想でも結構です。
- 私は始めて読ませていただき、多岐にわたった内容なので、これを全部審議するのは非常に困難だと思いました。何かを取り上げて審議したほうが良いかと思いますがいかがですか。
- これをすべて審議するというのではなく、私たちの場合は教育長から諮問をいただいたので、第2次推進計画は10年間ですが、あと4年くらいで中間の見直しができるような答申をみなさんで出していきます。
- 東京都でもファシリテーターを育成しながら、組織立てて地域と行政と生涯学習についてのプランを実際に実行したという形をとっています。これは府中市としても早急にしたいと思いますが、それを組織立てていくとラインを作っていくのは、行政側なのかと思います。それは焦るほど気持ちはずっとありますが、そのためには時間を少し作って養成しなければなりません。ファシリテーターになるような人の教育機関など、担い手の育成を半年か1年くらいかけて、そういうのを作っていくというのを是非したいと思います。
- ➡ 67ページに「市民参加の推進」というのがあります。その中で、「地域の生涯学習の担い手（生涯学習ファシリテーター）の養成」。目的・内容のところを言うと、「地域における生涯学習活動の事業企画・運営、また、情報提供や相談に応じるな

ど、市民の学習活動に対し、直接的あるいは間接的に支援を行う地域の担い手を養成する。」というように書いてあります。今考えているのは、みなさんの中で予算措置を要求して来年あたりから研修とかやってみて募集をして、ファシリテーター候補の方をなるべく確立していくというように、今のところは考えています。

- わかりました。焦ってはいけませんね。具体的に動き出すのは来年度からですね。
- ➡ 予算措置的には。
- ➡ 準備は今年度からしてください。
- わかりました。
- 私もこれを読ませていただきました。利用者数総数の問題では、これを評価するというのが一番関心の一つでした。つまり、全体として増加してきているのか、減ってきているのか。それから文化センターごとに、状況が違おうと思いますが、そういう事情もふまえて、やっぱり分析をしたほうがいいと思います。減ってきているのには、それなりの理由がありますし、それから増加しているのには、それなりのインパクトがあるものを企画しているとか、必ず関連性があります。そういう状況の中で、市民のニーズというものをどのように全体として把握して、重点化、絞り込みをするのか。学習センターの数字については75万人なので、過去5年くらいのところ、もう少し具体的なデータがとれるかどうか聞かせてほしい。それからもう一つ。下のほうに学校開放と書いてありますが、学校の体育館とか校庭などを地域の諸団体のみなさんが使うのは、小学校の教室が1500人、体育館が9万3000人で、小学校は21校ですか。
- 小学校は22校、中学校は11校、全部で33校あります。
- 中学校の体育館等は部活動等でほとんど使うのが難しい。そうすると22校で割るとすると年間で、ずいぶん学校にも違いがあるのだろうけれども、システムとしてどうなっているのですか。そのへんのところを聞ききたい。というのは、実は私は調布にいたので、調布はこの小学校単位とした、学校開放としては極めて歴史があります。数を比べないとはっきりしませんが、その学校を一つの学び返しの出会場の場、あるいは地域の方の出会場の場という位置づけの中で、学校や地域センターをリンクさせたり、もう少しきめ細やかにやっていくことに意味があるのかと思っています。その点で学校開放の今の各学校と特に女性のみなさんとの繋がりというか仕組みは、どうなっているのですか。私の中で比較するわけではないですが、もう少し詳しく知りたい。学び返しとするにはやはり、学びの出会いをどういう場に設定するかが非常に重要です。その出会いの場は今までどういうふうに組み立てられて、どういうところにプラスの要素があったり、上手いいかないマイナスの状況があるのか、もう少し資料やデータ、あるいは実際に見たり具体的に把握しながら

ら、検討していったらどうですか。もし分かれば教えていただきたい。

➡ データについては、平成20年度決算がもうすぐですが、20年度までの5年間の推移については、7月に決算になりますが、各課に照会をかけて、まとめて作りたいと思っています。ちょっと遅れますが、9月くらいまでには20年度までの推移が分かるような資料をみなさんに見ていただくことができると思います。それから学校のほうですが、学校教育プラン21というのがまた別にあります。それと生涯学習推進計画が合わさり、学校教育、一般的には社会教育の2つが合わさり、教育基本計画のような形で位置づけているので、学校教育プラン21にも学校開放があるので、その整合性のようなものについての基本的な数字については、お示しするようにしますので、また参考に学校教育プラン21の概要版を資料としてみなさんにお配りします。

■ 府中市では今、学校教育プラン21の3期に入ります。6つの重点があって、これについては、もし教育委員会でその冊子を配っているのもしいただけるようなら委員のみなさんにお届けして、プラン21と生涯学習推進審議をタイアップした形でもっていけるといいと思っていますので、教育委員会の方に行ってください、委員のみなさんにこういうことやっている、というのをお示しできればいいと思います。それから学校の施設ですが、体育館と校庭を地域の方もしくは地域の少年スポーツ団体が利用しています。本校の例でいうと、毎日毎晩ですから本当にフル活用のなかで、地域の方や子どもたちが利用してくれています。それからもう一つ。先ほどファシリテーターのお話ですが、今、南白糸台地域で5年目、教頭を5年やっているのも、10年校長、副校長をさせてもらっていますが、見ているとPTA会長さん、消防団の団長さん、文化センターを中心としたコミ協（コミュニティー協議会）の中で活躍していた人たちが、けっこう地域のいろいろな行事を引っ張っているというのは言えます。だから、本校でPTA会長をやっていた方が、そのまま放課後子ども教室の実行委員長さんになってくださり、いろんなイベントを考えてくれます。それから、児童委員でも活躍されて、為になったと聞きました。消防団の関係でそこに繋がるかは分かりませんが、お囃子という一つの組織があります。そのお囃子もやっぱり代々、消防団の方たちがこういう受け継ぎで繋げています。比較的そういう方たちが多いと思います。

■ 活発に地域がそのように動いていれば子どもたちも。

■ はい。その学校ですが、しいたけ、わさびを作っています。この前の土曜日は、しいたけの枯れたものを生かして、カブトムシ、クワガタの幼虫を育てるということで施設を作りました。結局そのオーソリティーというのが、プロが来てくださって、子どもたちとその保護者の方たちを集めて指導してくれます。だからそれも一

つのファシリテーターなので、いかに学校を開くか、学校を受け止めるか、それがやっぱりポイントだと思います。それを受け入れるということです。

- 学校開放度は学校によって違うのですか。
- 違うと思います。
- 私どもにとっては、学校は選挙だけにしか行かないものです。入っていくと胡散臭そうに見られるところを認識するが、そうでもないのですか。
- 今の府中の学校はほとんど開かれていくように進んでいます。眠らない学校ではないかと言うくらい利用度が高いと思います。昼と言わず、夜と言わず、電気が点きっぱなしで、サッカーや成人がゲートボールをやったりしています。
- それからすると12ページにある「学校開放 教室(小学校)」は年間で1,561人しか利用してないということですが、どういうことですか。
- どうゆうことをしているのですか。音楽室とか図書室とかを使うのですか。
- 教室は比較的少ないです。主な開放場所としては体育館と校庭です。必要に応じて、オープンスペースのような部屋があるので、そういうところも使っていただけます。それから放課後子ども教室のところでは小学校3校と書いてありますが、これは平成20年度のもので、現在は小学校22校行っています。それからそれに合わせて、地域子どもひろば事業というのが19校、放課後子ども教室の実行委員会があり、22校が放課後子ども教室が主催する子ども事業を実施しています。
- ありがとうございます。この数はおおよそのものですか。
- はい。団体さんによって全然違います。例えばインディアカの方が火曜日の夜にやっていますが、その方たちは地域の10人くらいのグループで体育館を使っています。その次が剣道で80人くらい来たりするので、その団体によっても違います。年間通してトータルしたらもうちょっと多いと思います。
- 市の方にちょっと質問ですが、11ページにいろいろな市内に登録されている団体が1178とあります。私の経験で4、5年前なのですが、小さな文化活動をしているサークルにとって活動の場所を、つまり利用費がかからない場所を確保するのはなかなか大変だったらしいのですが、今ルミエールが新しくなり、空いているという状況ですか。時間がぶつかったりもするので、まだ足りない状況ですか。
- ルミエールや文化センター、それから学習センターもそうですが、はっきりいっていっぱい状況です。今、社会教育関係団体も多いですが、NPO関係とか市民活動支援の方でも増えていて、NPO、市民活動関係の団体については、社会教育関係団体とは違って、減免の部分がなかったので、これからはやっといこうということですので、ますます増えていく状況にあります。
- ありがとうございます。

(休憩)

- 今までいろいろと良いお話を聞かせていただきました。みなさまが疑問に思ったこと等、何でも結構です、「第二次推進計画」を読まれたうえで思ったことをお話いただけたら、今日はいいと思います。
- 現在ボランティアをされていて、疑問に思っていることが多々あり、先ほどおっしゃいましたPTA関係、消防団、コミュニティ。それは、けっこう地元の有力者とか実力のある人たちが関わっている団体が結構多いと思います。それを核にして広がっていきますが、我々が学習ボランティアをしているのは、趣味を生かして団体にボランティアをしている、という形ですが、そういう人たちの活動の場というのを学校とリンクするような形、たとえば私は文化の方からでていますが、短歌、日本の伝統文化を学校に行って指導するとか、一緒にやるとかやってみたいと思っています。そのリンクさせる中間の立場の人たちがどこに持っていけばいいかわからないとか、なかなか短歌にしても俳句にしても、私なんかは映像ですからビデオの作り方から、そんなことがIT社会の中に入れてみたいというのがあります。そういうのを少し広げていくという場を作っていくということを考えてみたいと思います。だからPTA以外にファシリテーターではないけど、そういう実力を養うための講座とか人材育成をもっていただければ、行政の方で旗揚げするのもいいですが、私たちは悠学の会に所属していますが、そういう人たちを拡員して立ち上げるとか、そういうのを希望したいと思います。なかなか学校に入っていくというのが。私は囃子もやっているし、保存会もやっているが、やっぱりやっている人は地元の有力者がけっこう多いです。私なんかは映像に関わっているからやっていますが、そういう文化的に伝統文化をやりたいというのが、すごく短歌を勉強していて、これをこの町とやれば語学力もあがると思います。絶対これは行政側と一緒にやれば、できることじゃないかと思います。
- それこそ具体化に向けての大きな道じゃないかと思います。それをうまく進めていくような形ができたらいいと思います。そのためには、いろいろなことをリンクさせることが必要です。
- 府中市に国際交流サロンというのがあります。海外からいらっしゃった方が日本語を勉強するために、ボランティアの方が教えてくださる。そういう組織もあるし、手話教室なんかも一般の福祉の方でやっています。府中市ですか。
- 社協です。(社会福祉協議会)
- 社協でやっています。実は〇〇さんは、私が一番初めに仕えた校長先生がご主人

でした。奥様はずっと生涯学習センターで、映像関係のプロです。そういうのも行政の方で学習する機会のようなものを設置するのも大事だと思います。

- ○○さんよろしいですか。今、学校でとおっしゃったのは、子どもたちに直接、教科の一部として教えるという意味ですか。
- そういうことではなく、放課後や土曜日曜にそういう社会教育のいつでもどこでもというのがテーマです。
- 今学校でも地域のそういう俳句あるいは短歌など、いろいろなさる方たちを子どもたちと一緒に勉強の場へということはあるのですか。
- すべてというわけではありません。たとえば読み聞かせ、パソコン、英語、しいたけやわさびの栽培、水田など、そういうようなかんじでその学校で何を取り組みたいかというような重点というのがありますが、そういうものに絡めて教育ボランティアの方を募集してお手伝いしていただくということです。すべてではありません。
- そうすると学校側から要請するということですか。
- そうです。
- 今年度はこういうことをやりたいから、こういう方はいないか。ということですか。
- そうです。
- それをコーディネートできる範囲であればいいということですか。
- 数年前に府中市で日本の伝統文化を教える人を募集したのを広報で見たことがありますが、その時に応募される方がいますか。
- ➔ 伝統文化子ども教室だと思います。今は文化振興課が担当していますが、年間数団体が応募をしているようです。不確定で申し訳ありませんが。
- それは文化団体連絡協議会で茶道連盟とか、生け花連盟とかあるので、そこで補助金とか貰って、事業しているところもあります。だから映像連盟も子どもビデオ教室を過去にやりましたが、商工会議所とタイアップしてやりましたが、そのときに商工会議所の事業としてすっかり持って行かれました。一緒にやるというところからちょっと外れていったというのは行政の力が弱かったんじゃないかと思います。いいことは、映像の見方とかそれから肖像権とか著作権とか難しい問題をやさしく勉強しながら教育していくというのも一つのテーマであったり、そのこのリンクをやっていたきたいというのは一つあります。だから伝統文化は、文化事業の方で、文化団体連絡協議会の方の伝統生け花、茶道、舞踊、いろんなことでありますが、それは届出しないと補助金はもらえません。でも子どもたちはすごい、お茶を習ったりするのが好きですから。

- やっぱり子どもたちに伝統文化に触れさせたい。
- 茶道なんかはどうですか。中学校で…。
- クラブ活動として二中でやっています。
- みなさんちょっとお聞きしたいのですが、生涯学習センターに行ったことのあるかたはいますか。
- 何回か講演しています。
- ではみなさんご存知ですね。各文化センターへ、地域の文化センターに行かれたことはありますか。それもみなさん行っていますね。
- よく部屋がとれないと嘆きの声をきいています。
- 今、通っていたら大きな問題があると思います。推進計画を読ませていただいたら、その「学び返し」という大変良いキャッチフレーズですが、例えば、府中で教わって府中に返すのか、大人になってから子どもに返すのか、このキャッチフレーズに少しおこがましいような感じがします。普通はコンティニューイング エデュケーションといって、生涯教育だったら墓場まで、死ぬまで勉強すると。若い人も一緒にするというのが、だいたい普通のキャッチフレーズです。このキャッチフレーズが説得力を持つと、大変良いと思いますが、大変なのは専門家が教えると、この後ろの方に書いてあるスポーツの場合は、すばらしいスポーツの選手が教えるようになっています。そうすると年をとった人が、勝つことができません。今のコンピューターのことですが、コンピューターは5年で古くなるので、私もコンピューター会社で作っていますが、若い人の方がひょっとしたら上手で教えきれない。さらに、府中の子どもたちに教えるのかという感じももちましたが、もう少し重点的に生涯教育の方にあるのか。教える方の方が勉強して一緒にやっていくのか、それとも子どもたち、これはある程度学校に任せてあるわけですが、その子どもたちと一緒に楽しくやるのか、どちらなのか。というふうに疑問に思いました。「学び返し」という言葉がちょっと不遜なこととか、説得力があるのかとか。もしこれがキャッチフレーズとしておもしろければ、いろんなところが使うと思いますが、奈良のお人形みたいな顔してくれないとか。府中市にもありますが、学生なんか連れてきたら「これなんですか」というから、「これはたいしたもんだよ」と言いますが、果たして、これお付けになったときに「学び返し」というのはやはりディスカッションをして、キャッチフレーズとして作り上げたものなのですか。根幹を揺るがして申し訳ありませんが、今まで知らないことなのでお教えていただきたい。
- やはり同じ理解をしていたほうが良いと思います。それは平成17年の第1期の審議会の中で生まれた言葉で、私は2期からですが、「学び返し」という言葉を聞いてきましたが、私たちは本当に高いところからの学び返しではなく、自分が市の文

化センター、生涯学習センターの中で自主グループとして学ばせていただいたが、そういったものをまた違う方に伝えていこうというような、そういう意味合いの学び返しの感覚で、うけてきています。だから誰もができる、例えば親が子どもに教えるということもそうだし、また地域の人たちが放課後子ども教室で指導したり、遊んであげたり。そういうのも学び返しと大きな形でとらえています。

- 遊びではないと言う子どももいます。学校と自分たちのスケジュールだけでも一杯だと。そうではなくして、私は先週、八戸へ講演に行きましたが、あそこは新しい遺跡を発掘されたのですが、「はにわ」の作り方を年配者が学校の生徒をたくさん集めて作り方を教えていました。熱心に非常に良いのを子どもが作るが、それはそれで地域にも合体して良いとも思いますが、実際にそういう指導があるいはシニアの大人が自信を持って、教えられるものが本当にあるのかという感じも持ちます。共に学ぶのなら「返し」は付かないと思います。「コミュニエジュケーション」日本語ではどう訳すかわかりませんが、アメリカは大学とか中学とか高校のキャンパスの真ん中に、いつでも卒業生がいて食事をしたりして、そこへ子どもたちが来てコミュニケーションが発達するような。あるいは学校の図書館が卒業生なら利用できるようになるので、卒業してからも連続して共に学ぶという感じです。学び返し」というのはやはりおかしいから、それこそボランティアが入ってお金があんまり取れないですとか。質が悪ければ、学校の先生は専門でやっているから。その領域をタダで侵してしまうのは良くない。学校の先生の意味を成さなくなります。例えば、英語を教えるのに、学校で英語の勉強を学んでいる先生よりも上手で上手く教えると意味を成さなくなって、学校教育が成り立たなくなります。だから「お返し」というのはどういう意味なのかと良く考えてみました。ボランティアだけにするなら構わないし、程度は高くないでしょうし。スポーツなんかボランティアくらいなら、極端に言えば、シニアのボール拾いくらいをやってあげればいいでしょうし。バッティングなんかできないし、サッカーなんかもできなくなります。ところが、プロだったらある種の年配者でプレーできるわけで、そう焦点を要するにシニアに置くのか、あるいは子どもたちを喜ばすのか、両方でしょうが。どちらに重点を置くのかで、意味がでてくるのではないかと思います。「お返し」というのは、今ひとつ良く分からないが、例えば府中第一小学校をでて、ずっとOBで先輩になってから、その第一小学校に少くくは返してあげようという気分があるんでしょうが、大人でこっちへくると府中市に何を返すのかと言う事になります。例えば、私は伝統文化を発信する理事長をやっているが、府中の太鼓なんか全然わかりません。できません。朝からドカンと鳴るたびに府中市は大きな音だしてと言って、40年間ぶつくさ言いながらやっているが、そういうのは教えられません。その程度くらい

なら、たぶんボランティアをして府中市の人で出来るんじゃないかと思います。この趣旨は今まで蔑ろにされていたとか、ほったらかしにされていた学校教育からはずれた人たちの教育が中心ではないかと思います。それで生きがいを見つけて。教えることも生きがいでしょうが、生きがいを見つけて、自分たちも切磋琢磨していくというのが、おそらく生涯教育の推進じではないかと思います。そこを狙っているのだと思いますが、言葉のキャッチフレーズがいい様な感じはしますが、もうひとつ意味が分かりません。「学び返し」というのは、こういう日本語があるのですか。作ったのですか。

➡ 資料の76ページ「資料3 府中市生涯学習審議会提言・答申」というのがあり、「学び」を「返す」とは、これら市民一人ひとりが持っている力を、社会に還元していくことである。自分の体験してきたことや技術・技能を伝えていくこと、また学んだことを活用していくことは、人と人との間をつなぎ、環をつくりあげていくという双方向性と循環をもつ」というふうであり、このような最初の提言、それからその答申がいろんな形の学び返しについて載っている部分があります。それから、「手間返し」。「手間」を「返す」。つまり何かしてもらったお礼に、代わりに餅つきをしたから今度はそれを配るとか。あるいは何かその代わりに何かを手伝うとか。昔からあるお互い様のような。生涯学習で、おじいさんが子どもにコマの回し方、金魚のすくいかたを教えるというのも、もちろん学び返しと称し、この教えることも喜びになる循環総合的な部分というのも、教える方も学ぶ方もそれが喜びなのだと思います。その喜びを広げていこうというものが根本にあります。教えること教わるのが非対称的関係だということも分かりますが、その発生する喜びとか、総合的な信頼を共同体とか、地域的な社会の核になるものを是非この機会に生涯学習の核というものを見据えていくということに基づいて「学び返し」をキャッチフレーズにしました。

■ 私は府中で生まれ育って、70年以上たつが、「学び返し」という話がでたのは、終戦直後で戦時中は苦勞して物を作ったとか、いろいろ覚えたとか、なかなか良いこともあります。すべてが良い訳ではないが、今でもある紙飛行機とか電話とかわらじを作るとか、雑巾を作るとか中には良い事があります。悪いこともたくさんあるが、そういうことを実際に苦勞して経験した人がいなくなります。子どもたちに苦勞しながら楽しかったことを教えるとまた子どもたちも興味を持ちます。特にわらじは、作っても自分で履けるから、ましてや第2次大戦の学校の廊下は釘がでてたり、ささくれがでていたり、わらじがすごく良かった。ですから当時の子どもたちが担っていくわけではないが、できたものがずいぶんいました。売ってた人もいました。器用な人で、子どもではないが。今よりたくさん需要があったようで、実

はあれを履いて学校まで行っていました。そういう時代でした。そういう良いことがだんだん無くなるので、前の委員会の中でも「経験返し」という言葉もでたことがあります。「学び」じゃなくて「経験」したものを今の若者に返そうということも話したことがあります。先ほど、〇〇さんでしょうか。学校に入れないという。やっぱり学校の委員さんとか役員にならないとなかなか入れません。私が今、府中市都立高校の連絡協議会の委員になっていますが、実際、先ほど〇〇先生から言われた太鼓の話ですが、当時、府中で一番大きい太鼓の太鼓長をやっていて、昭和天皇座位60年のときに上野から新橋まで太鼓引っ張りました。銀座通りの車を止めて、あれは見事でしたが、私はその時の責任者で、今でもその快感は忘れません。太鼓の上に乗って銀座通りに行くことは2度とないので。そういうことをやってきて、高校の子どもたちに今、太鼓のすばらしさを経験してもらおうと思って、今年3月の会議で具体的に決まったが、校長先生と副校長先生と担任が転勤してしまいました。ゼロになってしまいました。それで、子どもたちに経験させられませんでした。市と学校と連携して、良いとなったが転校になりゼロになりました。クラブ活動もそうかという気はします。また簡潔な話がでたら話します。

- 私の理解では「学び返し」というのは、自分が出来る何かをパソコンであれ、俳句を作る能力・技術であれ誰かに教わってできることを私よりも出来ない人に教えるということです。そういうことを「学び返し」というふうに私は理解しましたが違いますか。
- 一人ひとりが持っている力を社会に戻していくというか、そういう感覚でいました。
- それは大賛成ですが、極端に言ったら、みなさんシニアだから、私も71歳だから草履も作っていたから良く知っていますが、社会でもどこでもシニアは追い出されてしまう。ただ引き戻さないといけないのですが、特に地域からも追い出されます。で、ある日突然、病院に入って死んじゃうとことになるのですが、何とかして市民生活の中にも老人としての生きがいをもたらさないといけないっていうのも大賛成です。しかし、能力がだんだんなくなるので、ある程度、会社でも追い出されて、実際社会からも追い出されています。発展途上国へ行ったら、おじいさんが村長になったりして威張っています。それから昔でも府中の太鼓をたたいたのは、副会長と同じく年配者がドンと前に行って支配していました。今は、年寄りも前へ行っちゃいけないと言って、怪我したらまた大変な問題ですから、警察にも叱られますから。年寄りほどいてって言うふうにやられています。そうするとあらゆる所から外されていますから、そういう人たちを何とかしないとイケません。青山学院が幼稚園からあるので良く分かっていますが、学校の子どもたちは忙しいです。3、

4、5歳の子どもたちは非常に忙しい。大学生も忙しいから学校に入れない。みんな出たら門をピシャとしまして、夜なんかアベックが入ってくると犬を放して、追い出しています。もし学校内で何かあったら大学の責任になるので、追い出していますが。確かにおっしゃるとおり、何とかシニアを入れたいと思うのが難しいです。学校の領域を奪うと僕は非常に物分りの良い先生方とかいらっしゃるので、非常に物分りが良いですが、おそらく学校もそんなことして、子どもは幸せなのかと言うふうには言う人もいます。受験があるし、太鼓で大学なんて受からないというふうになります。だから亜細亜大学は一芸入試があったが、みんな成績が悪いのでやめましたが、太鼓だけ叩くだけでも入れたんです。でも大変難しく、なんとか掘り出されようとするシニア達を昔の偉業というのを、さっき副会長がおっしゃったような昔の経験とか学びを一緒にというふうな感じだと思います。私はそれに大賛成です。しかし、ここだと子どもたちにシニアがどういうふうに学ばせるのかという感じです。

- 「学び返し」というのは子どもだけが対象ではなくて、大人と大人もあります。全体的に子ども対象の話ばかりしていましたが、ここまでの審議会の話は子どもだけではなかったと思います。シニアに対するものとかいろいろでています。それらを含めての「学び返し」と理解していただけたらいいと思います。
- 生涯学習というのは成人を対象にしたものですか。というふうに限定してよろしいですか。
- 生まれてから死ぬまでです。
- 私はボランティアセンターでボランティア活動を推進していますが、今言ったようにシニアに関して、それが最重点目標にあります。どういうふうなことをやっているかと言うと、市との共同でシニアガイドブックというのを作りました。シニアが社会に活動する場を作っていくという形で一部はまさに学習ですが、そういう活動をしています。そもそもが、いわゆる生涯学習というのが、家庭学習と学校に行っている期間、それとそれを卒業して社会にでる状態というのと、それぞれみんな立場が違って来るから、当然それぞれの形で内容が変わってきます。それぞれの内容で立場が変わったところで、どういう事をやったらいいかっていうことを、柄杓として持っていなければいけないのではないかというふうに思います。もうひとつは、小さいお子さんに、いわゆる満足度を測定するのは難しいが、こういうことをやったということに関しての満足度というのが、25万人の市民の方がこういうことを市が一生懸命やっているということをとらえてその満足度が、どれくらいまでいっているのかという測定度合いをどこでチェックされているのかが、私も非常に不思議に思うのです。なんでかと言うと、学校のいろんなことに参入しようとし

ても学校の校長さんの独断で、これはだめだ。と〇〇先生がおっしゃったようにへたに学校に一般の人が、教育の手助けをしようと言っても、先生の技量の中身を問われるといけないからと言って、拒否されるということも含めて、学びということに対しての満足度という測定を、どういうふうに測りながら、それを推進しているのかということが結構必要なのではないかと考えています。府中市の場合は今、お膳立てをしてもらって、その上に乗っかっていることが多いですが、そうではなくて基本的に自分たちの中からこういう事をやろうということがだんだん出回りつつあります。そういう限り、私たちもやりたいと思って推進しています。やはりそういうことからお膳立てではなくて自分たちの発想をもとに動きたいという仕組みを作り上げる必要があるのではないかと考えています。

- 私は悠学の会で事務局長、副代表を兼務でやっています。先ほど〇〇さんから話があった市民活動支援課の事業としてのシニアガイドブックも編集委員としていろいろな取材をしたりして、なかなか立派な冊子ができあがりしました。先ほどの「学び返し」ですが、今年2月頃にボランティア養成講座をやりました。これは一つには既在者のスキルアップと新人の発掘ということもありましたが、その時に「学び返し」の言葉について先生がおっしゃったようないろいろな意見がでました。この年になって「学び返し」なんて言われたら、学んだものをお師匠さんになって教えられるようにならなければ返せない、という意見もありました。これも一つの見方ですから。「学び返し」というのは、言葉の意味ということだけではなくて、今までいろいろ経験してきたことや、その中からお役に立てるものがあるのではないかと。例えば、講座なんか開きにいったときに受付のお仕事だけだったらできますと。そういう人も、その行為自体が一つの「学び返し」になっているのではないかと。そういうように考えないと、なかなか「学び返し」というのがピンとこなくなります。そういう意味で、その人はそれをやることによって、新しい人たち、あるいは知らなかった人たちと挨拶ができるようになる。その人は楽しみを覚えるだろうし、やりがいもあるだろうし、何回か重ねていくと、ご苦労さんとか、いつもお世話になってますとか言われると、やった方はやりがいがあると思うだろうし。やって良かったと思ってもらえれば、毎日楽しくそういう仕事をいつまでも続けていけるだろうし。お元気なうちはやっていただけるだろうし。そこに居場所が一つできるのではないかと。ということがあつたら、また受けた方も私にもお手伝いができるかもしれないということも考えてもらえれば、それはそれで一つメリットがあるのではないかと。というように考えていたらどうかと思います。本当の意味で社会生活として「学び返し」とはそういうことだと。普通は僕らも先生ができるという

ものでもありません。専門家でもないし、会社で物をつくる仕事とかやりがいがある仕事はありますが、それをやりあげたところに何かの経験がある。そのときいろいろ苦労したこともあります。そうして自分で学びとったものもあります。それが一つでも役に立てれば、それが本当の学び返しになるのではないかというように考えたらどうか。というような話をしたことがあります。ワークショップをやった時にそういう意見がでました。意見がいっぱいあって、それに対して「学び返し」についての一つの考え方ということで、短い文章だが書かしてもらいました。そういうようなことで考えれば、お互いを助け合いながらしか生きていけないから、その中で一つの仕事をお互いに与えられるものもできるだろうし、貰えるものもたくさんでてるのではないか。それで生涯学習というのが、で十分なのではないか、という気がしているが、いかがですか。

■ 私も生涯学習の目玉というのは、いわゆる団塊の世代とか、わりと若いシニア層あるいは、その上の年代層にあるのではないかと思います。ニーズが一番あってしかも効果が一番でくると。そういう人たちというのは30年くらい会社人間とか職場人間とかやってきて、地域との繋がりというのがありませんでした。いざ家庭に戻っても、地域に戻って「学び返し」をしようと思っても、なかなかきっかけがない。だったらそういうきっかけを作ってあげると、そういう場が生涯学習センターなり、いろんな良質な先生方もいるし、できるだけそういう場を作ってあげると、仲間を引き込んでくるということに重点をおいてもっとやっていきたいと思います。いろいろ「けやき寿学園」でパソコンとかいろいろやってもらっていますが、そこに行っても、話しを一方的に聞くということが主で、先生方の話が終わってから質問するとかディスカッションするとか、そういう活気のあるものになっていません。そういう時に質問したりすれば、同じようなことで来た仲間がいたというところでまた活気もでてくるだろうし、できるだけそういう人たちが入ってくるきっかけを作ってあげたいと思います。介護保険とか老人保健とか財政的な深刻な面もでてきますが、シニアの人たちも好きなことやっていけば健康が保てられます。市の財政もそれなりに助かるから、できるだけ企画を作って引き込んで、バリバリやっていく場を考えていきたいと思います。

■ 今までの審議会の中でも団塊の世代のニーズがでてきています。団塊の世代の方たちを引き込むためのものとして、「学び返し」のかたちの中で地域に戻ってきてほしいという話がたくさんでています。

■ 今の話の中で地域というのをどういう活動範囲とかレベルでとらえて考えているのか、その地域が活動の主体になっているような生涯学習に係わるような、どんなものがあるのか。私も実は団塊の世代ですから、自分の体験でいうと、私は晴

見町に住んでいますが、地域が分かりません。晴見町の地域ってどうなっているのか全然分かりません。自治会とかいろいろありますが、実際には全然ノータッチの状況で、話も全然聞けない状況です。そういう意味で完全に孤立しています。それで、市の方で講座があるから、生涯学習センターでパソコンの講座を広報で知って、これ参加してみようということと、ここでいう地域での親密を高めていくということでイメージしている地域というのは、どのように考えていますか。地域の中で繋がるには場がないと。そのことで府中で言っている地域というのはどういう考えで、どういう活動の場を持っていて、それを今あるものを高めていくというイメージがあるのですか。その辺はいかがですか。

- 「場」という言葉がでまして、その「場」っていうのは非常に必要です。その「場」というのは町内会を基準にして府老連（府中市老人クラブ連合会）とかの組織があります。実際は入れません。進んでその中に入っていく雰囲気がありません。雰囲気がないというか、そういう受け入れ態勢がなっているのか分かりません。だから、まずは町内会にデビューするのが一番必要なんじゃないかと考えています。私もなかなか入れないでいます。
- 町内会デビューっていうのはなかなか今まで勤め人で会社人間だった人たちには難しい。私は府中に来て29年になるが住宅地が新興住宅地であったために、私たちの先輩はせいぜい10年前に府中に来た人たちで、比較的どんぐりの背比べというか、要するに元々府中の住民だった人との区別があまりありません。比較的動きやすかったと思いますが、自分が去年から町内会の副会長に任じられて一生懸命やっている状況から見ていると、やはりこれからサラリーマンを辞めて家庭に戻る人たちはどうやって入ったらいいのだろうと、それぞれの人が悩んでいるようです。何かやっぱり既存の団体やらクラブなりがチャンスを与えないと入れない気がします。私の場合はたまたま16年間フリーダンスで地域に事務所を開いて仕事をやっていた関係で、地域の人と顔見知りになりました。奥さん達とも挨拶するようになったので、比較的すんなり入れたと思います。奥さん達同士が、女性たちは不思議なもので、昨日まで知らない人が今日からは大の友達になります。男はそうはいかないから難しいというのがありますが。そのために市のレベル、都のレベルあるいは町内会でクラブ活動というか、サークルに首を突っ込む必要があると思います。町内会に入るのが一番ですけど、なかなかやはり難しいところがあります。
- 地震でもなければまとまりません。
- 地震があっても非難する場所が決まっているにも係わらず、私は行かないと言う人が圧倒的に多いです。年をとると、そこまで行くのが大変だと、動けない。
- 町内会でも電話番号を教えてくださいません。

- 第一歩も踏み出せない人の後押しをどうやっていくかっていうのがこれからの私たちの課題ではないか。
- 第一歩を踏み出すための応援は府中市とか、生涯学習関係がどんどん色々なチャンスを提供して。広報ふちゅうはそういう意味では役に立ちます。
- そういう意味では課題が出てくると思うが、要するに学習相談的な窓口が本当にちゃんと機能していません、府中の場合。調布はそういうのはちゃんと揃っています。
- それは〇〇さん、どういうことですか。私は何かやりたいが、私がやれるようなことが...
- どこ行って相談したらいいかが分からないんです。
- そういう窓口ないのですか。
- いや、窓口はあります。出てくるのは、電話番号もかいてない、もしくはでない。それから常時職員がいません。本来は職員なり、別に職員でなくても委託してもいいので、職員など相談にのれるような人が常時いればかなり来ます。実際、相談する人が誰もいなくてもいいと思います。一日3件か4件は問合せが来ています。それが毎日あると言えどもっと来るはずですよ。おそらく10くらいは来ると思います。ただし、イベントがあったときに、ちょっと開いたときは全然来ません。これは相談窓口というのは、常時ずっと開いているもの。そういう機能のしたことをやっていけば、けっこうみんな助かるのではないかと思います。そうしないと自治会も入れない、学習センターで何かあるみたいだが、何したらいいか分からない。場所も良くわからない、とこういう話から始まって、文化センター10いくつかありますと言うが、文化センターどこにあるかと言われても...
- ふちゅう広報にも載っているが、なかなか耳に入らない。
- 今まで市の広報なんて読んだことがないなんて人、結構います。男の人なんて勤めているから、だいたいそんなものです。自分に関係する家庭のことというのは、だいたい家内が全部やります。奥さんが自治会でこんなこと言っているとか、ゴミの収集がこんなふうになるとか、奥さんは知っているけど基本的に主人は何にも分かりません。
- コミュニケーションがとれていないのですか。
- それもあります。家庭内でも遅くに飲んで帰ってきて、さあ寝るっていう人は結構います。そうすると、朝顔合わせてさっさと新宿まで40分かかると思わなかったと言いながら出かけなければいけない。
- 話を割って申し訳ないが、生涯学習支援センター的なものをいろんな所とリンクさせて、何か相談があればそこでやれるような。そういうネットワークな無いから。

福祉は徹底して機関紙もでているし、そういうのを見ると、こんなところのボランティアがあるんだと、いろいろ分かります。生涯学習に関しては、あまり私たちも生涯学習のボランティアとして情報誌を作っていますが、それはもうよちよち歩きで、徹底していません。そんな形で社会教育支援情報センターでもいいし、支援センターでもいいし、何か男性の地域デビューみたいなのをサポートする意味で、公園デビューではないけど、少し先導的に支援センターに行けばこういう部類があるから、そこに行って勉強しようとか。私の経験だと夫が現役のときにスポーツ指導員というのをしました。私は一生懸命やったほうがいと応援して、論文書かされてスポーツ指導員をしたという経験がありますが、うちの方は新興住宅だから、意外と他のことは知らずみたいに、挨拶もしない人がいました。何だここは、ちっとも温かい感じがしないという疑問を夫が持ち、じゃあ親睦委員会を作ろうという感じで、やってくださいという感じで、じゃあ私サポートするからやってみたらと言ったら、みんなが応援してくれて。だからきっかけ作りというのは男性がすごく、頭にでることで町内会も上手くいくというのが、私たちの地域のやり方だったので、今ではグランドゴルフをやったり花見の会をやったり。ただちょっと寂しいのは防災関係が、みんな協力してないというのが。やっぱり先ほどおっしゃったように、町内会がまず大事なのではないかという気がします。

■ 本当に身の回り、自分の地域のことを出すだけでも、いろいろと見えてくるものがあるのではないかと思います。また次回に繋げていきたいと思うので、よろしくをお願いします。

■ 今日は終了。

5 その他

1) 資料について

シニアガイドブックを配布予定。

2) 親睦会の開催について

日程については7月の審議会終了後に決定しました。会場等の詳細については後日、お知らせします。

3) 審議会の開催日程について（資料1）

情報公開の一環としまして、審議会の傍聴について広報でお知らせして募集する関係もありますので、1年間の予定（案）を作成いたしました。原則は毎月の最後の月曜日に開催いたします。8月は夏休み、お盆のため、10月は社会教育委員の全国大会で出張していただく委員さんもいらっしゃるため、12月が年末にあたるため開催いたしません。2月までで全8回を予定しております。

す。中間答申のまとめり具合によりまして、3月の実施、小委員会の実施を考えておりますが、日程については未定です。なお、皆様の出欠の状況によりまして、有効な人数に満たない回だけ日程を変えさせていただく場合がございますので、今までよりも早めに出欠を確認させていただくことになるかと思えます。空いている月も先進自治体の社会教育関係の視察や、9月には生涯学習センターでフェスティバルも開催いたしますので、現場を見ていただく機会をつくりたいと思えます。こちら日程でいかがでしょうか。

(委員のみなさん了承)

[次回の開催について]

第3回：6月22日（月）午後2時～4時